

# 令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(明戸中学校)

## 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
明戸中	下回った	上回った	上回った	上回った	下回った	上回った	下回った	下回った
埼玉県	63.8	60.2	55.5	56.4	59.0	60.8	53.3	50.4

## 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
明戸中	7-A	8-B	9-C	7-B	8-C	8-A	8-A	9-B
埼玉県	8-C	8-B	8-A	7-C	8-C	8-A	9-C	10-C

## 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
明戸中		2	2		2	1		2
埼玉県	1	1	1	1	2	2		2

【1】県教委では子供たちが現在の實力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深め、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような教育を進めていきたいと考えています。本調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」の視点を加え成長の姿が見える調査です。

【2】本調査は子供たちの、「学力の伸び」を測ることができる「教科に関する調査」、と学習に対する意欲や学習方法、さらに家庭での生活習慣等に関する「質問調査」。

【3】学力のレベルは、36段階（12レベル、A→B→Cの3層）で設定しています。小4から中3までの全ての問題に難易度（1～12）を設定し、学力レベルを測定。本調査における「学力のレベル」の考え方は「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

例 7A <昨年>  
 7B  
 7C <今年> <昨年><今年>  
 6A  
 伸び 2      伸び 0

公表例

質問事項

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		中1		中2		中3	
質問事項		明戸中	埼玉県	明戸中	埼玉県	明戸中	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	95.4	80.2	76.3	70.4	84.6	68.1
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	81.9	72.8	79.0	68.2	80.8	66.6
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	90.9	82.6	84.2	83.1	100	84.6
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	77.3	88.1	94.8	90.8	84.6	92.1
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉遣いができる	90.9	88.7	89.4	89.9	88.5	90.2
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	68.2	48.1	57.9	44.1	46.2	43.4
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している	86.4	72.3	84.2	69.0	88.5	73.6
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	13.6	14.8	5.3	10.4	3.8	9.8
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ	95.5	73.7	47.4	65.2	61.5	58.5
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	90.9	56.9	81.6	47.4	73.1	39.4
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思う	77.2	65.0	57.9	55.6	65.3	59.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	81.8	81.7	78.9	73.8	57.7	80.0
	・授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	27.3	25.6	94.7	12.0	96.2	14.3
	・昨年度週2回以上タブレットを家に持ち帰って宿題含めて学習に利用した	50.0	27.2	10.6	13.0	34.6	12.5
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	100	93.3	100	93.6	100	93.3
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	100	94.3	94.7	94.1	100	94.3
	・学級での生活は楽しい	100	91.0	86.9	91.4	92.4	90.4

## 公表例

### 【質問紙分析】

- ・「周囲の人は自分の良いところを認めてくれる。」「学級での生活は楽しい。」の割合が高いのは、生徒理解のために校内組織や学年や学年を超えて情報を共有し共通理解・行動連携を取ろうとしているからと考えられる。
- ・「将来の夢や希望を持っている。」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。」の割合が高いのは、個に応じた支援体制が適切にとられているからと考えられる。
- ・「地域の歴史や自然に関心を持っている。」の割合が高いのは、地域支援本部や地区の諸団体との連携を取り、行事を実施しているからと考えられる。

### 伸びが見られた学級・教科での取組

#### 【学級】

- ・教え合える雰囲気づくりをつくるため、学活でグループ活動を取り入れている。
- ・朝の会、帰りの会で「係からの連絡」「委員長からの話」等を大切にし、必要な情報・考えをきちんとアウトプットできるようにしている。
- ・少人数クラスの特徴を生かして、机間巡視などで生徒一人ひとりに目が届くように取り組んでいる。

#### 【国語】

- ・小グループの活動やジグソー法の活用を通して、自分の考えや意見を言える環境を作る。
- ・自分と違う考えや意見を尊重する姿勢を、グループ活動や教え合い活動の充実を通して育てる。

#### 【数学】

- ・生徒自身が考えを深める時間を確保する。
- ・早く課題の終わった生徒が、他の生徒に対して自分の答えや考えを説明する機会を意図的に作る。

#### 【英語】

- ・わかる授業はもとより、不得意な生徒でも「楽しかった」と実感できる授業の工夫。
- ・単元ごとに、単語テスト・単元テストを実施している。

### 一人一人をより伸ばすための取組

- ・がんばりま表で、テスト前の学習の質と量の向上を個別に支援していく。
- ・1日1ページの自学ノートへの取り組みを毎日行っている。
- ・学級や学年の日々の活動の中で、係活動や当番活動の役割を持たせる。その活動に見通しを持って取り組ませ、成果を認め振り返りを行うことで、自己有用感をより高めていく。